

## ⑫伝統の早明戦 (ONE BY ONE)

2020年12月06日

伝統の対抗戦、早稲田 vs 明治の一戦が秩父宮ラグビー場で開催された。12月第一週の日曜日は決まって「ラグビーの日」とも云われるほどラグビーファンにとっては重要な日である。恐らくワールドカップの次に視聴率が高い試合かもしれない。

今年はコロナ禍での開催で観客動員が危ぶまれたが、今年一番の入場者数が入ったビッグゲームです。加えて早稲田が今シーズン全勝、明治が1敗とまさしくこの試合に勝った方が令和2年度対抗戦の優勝校となるわけだ。早稲田も明治もいつもに増して気合の入った試合といえる。

思い出していただきたい。今年の1月11日、国立競技場で開催された試合、対抗戦優勝の明治が早稲田に敗れた試合から凡そ11か月経っての明治大学のリベンジマッチがこの12月の1週目の試合でもあった。

前半そして早稲田のキックオフで試合開始。最初の10分間は両校とも低いタックルを交わす拮抗した展開。徐々に攻勢を強めた明治が2度トライのチャンスをもものにできなかった。3度目の正直、相手ゴール前で明治FWの縦の攻撃でキャプテン箸本（はしもと）のポスト横にトライ。その後もセンター付近からBD横をFWが走り抜け突破。2つのオフロードパスで快速ウイング石川のトライ。そして早稲田FWのペナルティから明治キックで前進、FWのラインアウトから得意のモールで3トライ目をゲット。

それにしてもどうしたんだろう、早稲田のラインアウトで一切ボールが取れない。近年のラグビーは、スクラム、ラインアウトといったセットプレーで精度を欠くと点は獲れない。

なんとか前半終了前に早稲田が一矢を報い、従来、拮抗した試合を予想していた早明戦。観客の拍手がまばら、それを裏付けるようなスタンドの雰囲気であった。コロナ禍でもあり観客からの声は一切ない。明治21-7早稲田で前半終了。観客の声はないが、明治ファンにとってはたまらない折り返しだっただろう。

後半は前半のディフェンスを立て直した早稲田が陣地を着実に進めるもなかなかトライには届かない展開。後半の最初のトライが欲しい早稲田。しかし、後半最初のトライも明治だった。後半から交代で入ったBK斎藤大のトライ。次のトライは早稲田、意地のハーフ小西のBD横を縦に抜けてトライ。最後のメのトライは明治ウイングの石田吉平。明治の完勝、しっかり今年1月のリベンジを果たしたような試合内容だった。

試合終了後の箸本キャプテンのインタビュー。「いい準備ができた。いい準備をしたらいい結果が繋がった。明治の今年の目標は、One by One。ひとつひとつ、1人1人がしっかり活動してきた。ここからまだ成長してゆく」と力強いコメントがあった。でも、箸本選手は明治だが、「伝統の早明戦」は特別、と「早」を先に云うのか。これはご愛嬌。大柄で激しいプレーをするNo.8箸本選手。対象的に優しい声のインタビューが印象的であった。

次週から始まる大学選手権。明治も早稲田もこの大学選手権を獲って日本一となることが最終目標。昨年度対抗戦優勝の明治に、選手権決勝で勝った早稲田。来年の正月明けに今一度この対戦があるとしたら、新たなストーリーが展開されるだろう。